

○4番（石垣 智矢君） 皆さんおはようございます。石垣智矢でございます。

3月の一般質問を始めさせていただきたいと思います。本来であれば、私自身一般質問をさせていただくときにはたくさんの資料と原稿を持ち合わせて一般質問に臨んでおりましたが、今日は原稿は何ほども持ってきておりません。参考資料のみでございます。今日の一般質問は通告書で町長にぜひともお伺いさせていただきたいことがあるという、そういう志でここにおらせていただいておりますので、本音と本音のぶつかり合いを、このまちづくりに対しての思いを、ぜひともこの場所で語り合いたいなと、そういうふうな思いで一般質問に臨みたいと、そういうふうに思っております。

昨日、私は東員第一中学校の卒業式に出席させていただきました。毎年、毎年子どもたちからパワーをもらいながら、いい卒業式やったなといつも振り返る、そんな卒業式ばかりですけども、改めて昨日の卒業式も子どもたちのパワーに圧倒されて家に帰る、そんな道のりでございます。いつも泣かずにおこうと思っておるんですが、僕自身の卒業式のときに歌った曲と、今の子どもたちが歌っている曲は全く一緒なわけでございます。どうしてもあの曲を聞くと自分の中学校生活を思い出してしまう。それほどまでに子どもたちの思いと、自分の思いというのが非常に重なり合う、昨日もそんな卒業式でありました。その子どもたちのパワーも受けて、本日は一般質問に臨ませていただきたい、そのように思っております。

それでは通告書のとおり、町長にまず町長のご意見をいただきたい、そのように思っておりますので、ご答弁いただきたいと思います。本町のまちづくりについて、本日はたった1個、この一つでございます。町長が考える東員町の将来像はどのようなものか。また将来を見据えた本町のまちづくりをどのように取り組むのかお聞かせください。こういう質問でございます。かなり大きな幅でございますが、これだけ大きな幅でご質問させていただいたのは、私自身も自分自身のまちづくりに対する思いをこの後述べさせていただきたいと思ったからでございます。ぜひともこの答弁に明解に回答いただきますようお願い申し上げます。どうぞよろしく願いいたします。

○議長（三宅 耕三君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 私も東員第一中学校の卒業式に行かせていただきました。石垣議員が学校のときに歌われた歌と一緒にと言われたんですが、我々の時代と随分変わったなと、歌が変わったなというような気がしていつも臨んでおります。

それではまちづくりについてのご質問についてお答えさせていただきたいと思えます。日本の人口が減少してから10年が経過いたしました。その間に約170万人の

減少を見ております。30年後には1億人を切るのではないかなという人口推計が出ております。今の日本の社会の制度設計は、実は明治時代にでき上がったもの、それは人生60年、実は当時の人の命というのは約40歳でした。ですから今の成人、二十歳が当時は元服といって14歳でした。14歳の40歳というのがふつうだったのを将来の寿命は60ぐらいいくだろうということ、当時としては大英断ですよね。それでその人生60年というものを基本として作られました。現在はそれも合わなくなってきたことにそれぞれ時代に合わせて調整をして使っているというのが現状です。例えば成人は二十歳で当時から変わっておりません。ただ定年は60歳ということで若干伸びているものの、今の人生80年時代にはとても及ばないと、対応できないと、こういうことごさいます。この際、国におかれましては思い切った制度設計の見直しというのが必要なきにきているのではないかなというふうに思っています。年金制度も合っておりません。だから例えばですよ、例えば年金は二十歳から60まで払うんじゃなくて、25から70まで払うと、定年を70にして、そこから年金をもらうということにすれば、今の制度にあってくるのではないかなと、例えばの話ですけども、こういった思い切った見直しが必要なんではないかなと思っております。

こうした人口減少の時代の中で、今、都市部への人口集中が顕著になっておりまして、本町のような小さな地方のまちでは地域社会の存続をかけた戦いが始まっております。これは議員もご承知のとおりだというふうに思います。国の財政状況も絡んで、国の仕事が今どんどん自治体におりてきています。移譲されてきてきておりますけれども、それに要する予算というのはそれだけのものはおりてきていません。また町民税等の自前の税収というのは少しずつ減少してきておりまして、地方自治体の状況というのは、本町だけではなくて、どこでも年々厳しい状況になってきております。

このような状況を考えますと、本町の30年後、50年後といった長期スパンでの将来を見据えた対策を今ここで打っていかないともう手遅れになってしまうというふうに感じております。私はそのキーワードは自立した持続可能なまちづくりと考えております。そのための人づくり、仕事づくり、生きがいを進めていかなければならないというふうに考えております。

本町では16年一貫教育による子育て、教育を通して、子どもたちが自立した大人として育つための取り組みを行っております。また若者会議や各種セミナー等を開催いたしまして、若者の社会進出を促すとともに、若者の自主的な活動を支援することにより、若い人が起業してくれることや、あるいはまちづくりのリーダーとして活躍してくれることを期待いたしております。

一方、喜び農業推進事業を経まして、農業を核としたまちづくりを始めております。関係企業、町内若手農業者と行政がタッグを組みまして、まず第一弾として大豆による「東員町ONLY ONEづくり」というものに取り組んでいこうということで今、努力をさせていただいております。若者が農業に参入できるような魅力、所得、環境、こういうものを作っていかなければなりません。持続可能な農業の取り組みは、本町の将来を左右する大きな課題だと言っても過言ではないと考えております。また農業を魅力あるものに変えていくことで、若者はもちろんですが、女性や障がい者の働く場に繋がっていくものと確信いたしております。こうした取り組みはあらゆる層の皆さんの生きがいつくりになっていくものと、これも考えております。

さらに高齢化社会が進んでいくことによって、能力のある、先ほど山崎議員にもちよっと答弁させていただいたんですけれども、能力のある高齢者の皆さんが増えてきております。そうした高齢者の皆様がその持てる能力を活かして、積極的に社会参加していただけるような仕組みづくりが我々には求められているのではないかなというふうに思います。本町には高齢者の生きがいつくりのためのシルバー人材センターがあります。しかし町内にはそれ以外にも企業等で培った専門的な知識や技術を身に付けておられる高齢者の皆様がたくさんお見えになります。こうした方々の能力をまちづくりに活用させていただく、そんなような仕組みとして人材バンクというものを考えていかなければならないのではないかなということで、数年前から庁内でも検討をさせております。幸い本町は高齢者の皆さんが地域でいろんな活動をされておりますので、県下でも有数の健康長寿のまちとなっております。高齢者の皆様がもっともっと生きがいを持って東員町の将来を考えた取り組みに参加いただける取り組みこそが持続可能なまちづくりに繋がるものと考えております。

こうした町民の皆様だれもがこの町の将来に向けて一緒に考え行動をしていただけるような仕組みを作っていくことこそが持続可能なまちづくりに繋がっていくというふうに思っておりますので、議員各位、あるいは町民の皆様のご支援、ご理解、ご協力よろしくお願い申し上げます。

○議長（三宅 耕三君） 石垣議員。

○4番（石垣 智矢君） 町長から答弁をいただきました。答弁の中では事業であり、制度的な話がたくさんあったと思いますが、僕自身が考えるまちづくり、僕はずっと今までも一般質問の中でも言わせていただきましたが、まちづくりというのは人づくりから、先ほど町長もまず仕事づくり、人づくり、生きがいつくりというこの3つから始めるというようなお話もありましたが、私もまちづくりをするにはまず人

づくりからだ、そういう話をずっと議員にならせていただいてから言わせていただいております。人づくりって一体どういうふうにしていけば人って形成されるのかな。もちろんこれは教育であると思っております。ただ教育というのは、学校教育だけではもちろんない。僕の中で考える教育というのは3つございます。学校教育、そして家に帰れば家庭教育、そしてもう一つ私が一番大事だと思っているのは地域教育だと思っております。なので教育と聞くと学校の現場が最優先であると、そのように考える方も多いかもわかりませんが、学校教育は3分の1、家に帰れば先生はお父さん、お母さんであり、おじいちゃん、おばあちゃんである。それこそお姉ちゃん、お兄ちゃん、家族のだれかが教育者である。地域に帰れば近所のおじいちゃん、おばあちゃん、近所の方々みんなが教育者である。私は学校というのは校舎ではない、町全体が学校だと思っております。教育現場である。そういうふう考えたときに、まちづくりは人づくり、その中でも地域づくりというところが非常に私は一番今後このまちには必要になってくるのではないかなというふうに思っております。自分自身がここで、私はまだ33ですけども、33年間で皆さんから教えていただいた教育というものを少しここでお話させていただきたいなというふうに思います。

私は生まれが北大社でございますので稲部小学校へ入学させていただきました。入学をしたときには既にうちの父親が学校の教師で稲部小学校におりました。そのときは6年生を担任しておりましたかね。稲部小学校の生徒の方々には、石垣先生の息子が入学してくるぞと、そのような声で稲部小学校に招き入れられた、そのような記憶があります。家でも父親でしたし、学校に行っても父親だとそういう記憶がすごくありますが、稲部小学校では地域の方々、また学校の先生方も非常に親身になって自分たちの小学校の過程を教えていただいた記憶がございます。そして義務教育の中でも中学校に進学して、中学校では自分の人生の中での非常に大きな転機がございました。私は中学校2年生のときに生徒会会長にならせていただいた。自分自身は生徒会の会長になるような人物では到底ございませんでした。ただ小学校のときから野球をずっと追いかけて、中学校でも野球がしたい、野球だけのためにという思いで中学校生活を歩んでいた中で、まさか先生方にも「君が中学校を変えなさい」と、そういうふうなお声をいつもかけてもらって、自分自身がだったらやってやろうという思いで生徒会の会長に立候補しました。生徒会の会長になるとどういう仕事があるんだろう、いろんなひな形があって、このような形で進めれば中学校生活がうまくいくんだよというような前年度や、今までの過去の事例があるのかなと思っていた。そのときの我々の先生は、「いや、去年と同じことをやってもおもしろくないでしょう」体育祭

であったり、文化祭であったり、音楽祭であったり、全ての行事において過去の事例を見せていただくことは一切ありませんでした。自分たちで一から考えなさいと、ゼロからですかね、ゼロから考えなさい。なのでクラブ活動が終わって、そのままみんなと一緒に帰宅したというのはほんの数回しかありませんでした。それぐらいにあのときの先生方には自分たちで考えるということを教えていただいた。

そのような経験を経て、高校生に進学をし、相変わらず野球が大好きでしたので、高校へ甲子園を目指すという夢を抱いて進学をいたしました。もちろん高校も自分自身は甲子園に行くための高校を選びました。同級生の野球部は最初42名おりました。1年生だけで、この中で勝ち上がっていかなければならないという、そういう組織の中での自分という、そのあり方というのを野球というスポーツを通して学ばせていただいた高校3年間でありました。

その後、自分自身の家が神社ということもあり、神社の勉強をさせていただきたい、そう思い伊勢にある皇學館大学へ進学させていただいた。もちろん神社の勉強をしに行くためでございます。入ってまず自分自身が門をたたいたのは皇學館の寮でございます。そのときは200人ぐらい寮生がおりましたかね。この寮に入った途端に、これは非常に厳しい先輩方に迎えられました。なかなか今の時代にこのような寮があるのかなという、そのような厳しい寮でしたけども、その200人という、大学に行っても200人というその組織の中での自分自身のあり方というものを勉強させていただいた。僕は大学へ行ってもこういう神社の勉強をしました、こういうところへ研修行ってきました、もちろんいろんな勉強をさせていただいたんですが、一番学ばせていただいたのはやはり組織という一つのコミュニティ、グループの中での自分のあり方というものを勉強させていただいた。それが一番記憶に残っております。

そのような経験を経て、社会に出るとなったときに、自分自身が地域の方々からいろいろとご指導いただき、お教をいただいたこと、何とかこの地域に返したい、このまちに返したいという、そういう思いで私はその後25歳のときに員弁1300年祭実行委員会という民間団体を自分たちの手で立ち上げてまちづくりをしようと思いきメンバーと一緒に立ち上がりました。そのとき40名ほどのメンバーでありました。自分自身もまだまだ若い年齢でもあり、勢いだけで乗り越えてやろうと、そういう未熟な部分もございましたので、最終的にはメンバーは8人しか残らなかった。悔しい結果にもなったんですが、そのときにいろんな地域の方から叱咤激励をいただきながら「君たちがこのまちを変えていけ」そういう声を本当にあちこちからいただきました。このままで僕は引き下がってはだめなんだと、そう思い、自分自身は議員という

立場で、議員というまた違った形でまちづくりに取り組みたいと、そのときに自分が員弁1300年祭実行委員会をしているときにもいろんな催しものやイベントをやる中で、「何でこのまちでやるの」と、「隣町でやった方がずっと人が集まるんじゃない」「そっちでやった方が絶対成功するやん」そういうふうな若い子たちの声もいただいたんですけど、僕はこのまちでやることに意味があるんだと、このまちで成功すれば、みんなができると思ってくれるから、まずこのまちで成功させよう、そういうふうな思いでまちづくり団体を発足させたものですから、このまちへの思い入れというものはだれよりも強い自分自身の思いがございます。

そのような形で現在も残ってくれた8人のメンバーとは非常に仲よくさせてもらっておりますし、今でもまちづくりのことについて様々な意見を交わしながら飲みに行ったりも、遊びに行ったりもしておりますが、自分自身はその民間団体をさせていただく中で、地域の方々からお教えいただいたこと、自分自身は非常に今でも心に残っておりますし、一番地域教育を感じさせていただいた出来事というのは、やはり大社祭りであったと思っております。自分は16歳のころに上げ馬の乗り子に神様に選んでいただきました。まだまだもちろん未熟者でございますので、馬の乗り方もわかりません。馬のさわり方もわかりません。その中で自分の1つ、2つ上の先輩方、成年会の中では7つ、8つ上の先輩までおりますので、そういう方々からご指導いただきながら上げ馬に臨ませていただいた。もちろん馬主の方々には60歳、70歳という、非常に私からすれば大先輩の方々でしたので、そういう方々からも本当にいろんなお教えをいただいて、地域とは何ぞや、歴史とは何ぞや、文化とは何ぞやというものを教えていただきました。その地域教育、皆さんが見守られとる中で私は今があると思っております。

もちろん今、学校の現場でも地域の方々と寄り添い合いながらの教育をさせていただいておりますが、本当の地域教育というのは、それぞれの地域で根付いている伝統や文化、こういうものを次の世代に引き継いでいく、次の世代にバトンタッチしていく、そういうものが本当の教育なんじゃないのか、地域に根付いた教育なんじゃないのかなと、私はそのように思っております。

そこで町長にぜひともお聞きしたい。私はこの教育という分野において、学校教育、家庭教育もそう、この地域教育、伝統や文化という分野に関して、ぜひとももっと、もっと次の世代に引き継いでいける地域教育というものをこのまちに根付かせていただきたい、そのように思いますが、この地域教育に関して、町長、どのように考えておられるか、ぜひとも答弁いただきたいと思っております。

○議長（三宅 耕三君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 石垣委員のふるさとに対する熱い思いが伝わってきました。ちょっとその中で感想なんですけど、員弁1300年実行委員会の皆さん、決して私も皆さんが成功したというふうには思っておりません。そこで挫折感を味わられたということを今言われました。私はよかったのではないかなと、ごめんなさい、済みません、申しわけないですけど思います。というのは、やっぱり挫折することによって次のエネルギーが生まれてくるし、そしてアイデアが生まれてくるというふうに思っていますので、よかったなというふうに、申しわけないですけど、思っております。

先ほど教育の話がありました。この学校教育の中で16年間一貫教育をやるということ、今やっておりますことは、本当に自分自身で考え、自分自身で生きていける、そんな大人になるということを目指しております。それには当然のことながら学校教育だけではそれは満たせないと、当然家庭教育、家庭の保護者の皆さんを巻き込まなければ当然その教育はできないということで、今教育委員会も進めております。それから悲しいことに、我々が育ったときに、実は結構やんちゃでしたから親に怒られるのは当然なんですけど、それ以上に隣のおっちゃん、おばちゃんからよく怒られた覚えがあります。だれが親なんやと言うと、地域のおっちゃん、おばちゃんが我々を育ててくれた親なんですよ、当時は。ところがそういう地域社会が今崩壊してきております。これはやっぱり核家族化というのが一つの大きな原因なんじゃないかなというふうに思っています。ですからこの地域社会の地域教育を取り戻せといてもなかなか今の時代には難しいのかなというふうに思います。そこで、今言われたような伝統だったり歴史があるものを伝えていくということは非常に貴重なことだというふうに思っています。そしてこの伝統、文化というものを次世代に繋いでいく、そういう子どもたちを育てていって、またその子どもたちが次の世代へ繋げていくというのはとても大事なことだというふうに思っております。本町では今言われた大社祭りというのは八百数十年も脈々と続いてきた行事であります。これをやっぱり続けていっていただくということは非常に、この東員町の伝統行事として、東員町民として大事なことだというふうに思っております。

また本町は、よく教育長が言われる三大文化事業、こども歌舞伎、ミュージカル、第九というものを近年ですけど始めてやっていっている。こういうのをやっぱり守って伝えていくということも非常に大切なことではないかなと、町民の皆さんがその心のよりどころというのは何だろうといったときに、やっぱり文化であり伝統であり、

そういうものが心の糧となって、その地域で生きていく非常に大きな要素ではないかなというふうに思っていますので、こういった伝統文化、そして新しい文化も含めて、東員町として特色あるそういうものを次世代に繋げていく、これはとっても大事なことであり、これは大きな教育の責任だというふうに思っております。ぜひ我々は東員町のこうした文化を、そして伝統を大切にしていきたいなと思っております。

○議長（三宅 耕三君） 石垣議員。

○4番（石垣 智矢君） 町長のおっしゃるとおり、今地域教育という分野に関しては、非常に我々も隣近所のおじさんやおばちゃんに怒られながら成長してきた部分があるんですが、それこそ文部科学省のデータにも出ているように、今は地域でなかなか教育という分野が根付いていない、それはなかなか他人に関して干渉できないという、そういう今の時代の教育の流れというのが、もちろん全国的にもそうですし、このまちにもあるのかなという。隣の家の子に、また学校内においても子どもになかなか怒れない。それは学校の教師もそうかもわかりませんが、怒れない。そういうような教育の現場になってきておる、地域教育もそのような形になっているのかなというふうに思っております。

僕自身は若い世代の方々、私自身がこの年で議員をやらせていただいておりますので、若い世代の方々をもっともっとまちづくりに参画していただける、そういう地域づくりをまず根付かせていただきたい、いきたいというふうに思っております。私が議員になって、それこそ若者会議が2年間ありました。そして育成町民会議の方でもいろいろな若い世代、青少年への取り組みというものが行われていき、若者会議では2年間行った中で非常にこのまちで活躍できるリーダー、やる気のある人の発掘というものが行われた、そのような成果が出たのではないかなというふうに思っております。

青少年育成町民会議の方では、去年の夏に東員町が初めてダンスイベントを行い、ひばりホールで約400名、第1回にもかかわらず400人のお客さんが訪れた。第2回目も企画しておる、そういうふうな話も進んでおると聞いております。非常に若い方々でやる気を持っている方々が現時点でいるということがわかった。今、三重県でも平成28年から若者と地域の競争推進事業ということで、若い世代を地域に取り込む、参画するそういう組織づくり、地域づくりを積極的に取り組んでいる次第です。28年から、最近始まりましたが、いなべ市は28年からその事業に取り組んでおり、29年には隣の桑名市もこの事業を進め始めました。非常に今全国的にも県下でも若い世代への取り組みというのを非常に注目視しておる。そのような形で今現在東員町



では若者会議が2年の時期を終えられた。今後どのような形で若い世代を地域で取り組んでいく、そういう取り組みを行っていかれるのか、ぜひとも町長、今後どのような活動が行われるのかお聞かせ願いたいと思います。

○議長（三宅 耕三君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 若者会議を2年間やらせていただいて、いろいろな皆さんが参加していただいた、そしていろいろな活動もしていただきました。できればもう一步進んでいってもらいたいなという思いがありまして、若者会議を経験された方と話し合いをしながら、次にどういう手を打っていくかというのを今考えているところですが、その一つの方法としては若い人、あるいは女性とかそういう方を対象としてセミナーとか講座とかいうものを行っている。そしてこの間は本町のアドバイザーをやっていただいている山田桂一郎さんに来ていただいたときは、講座は一応2時からだったんですが、もう10時から城山のあさがおカフェでしたね、確か。で若い人と一緒にいろいろな方策というものを考えていただく、そんな座談会適なことをやっております。それから終わってからも引き続きそういう取り組みをやっています。若い人たちにとって、じゃあ具体的にどうしていけばいいのかというのがなかなか見えていないところがあります。ですから、こういうところではこういうことをやっているよ、ああいうところではこういうのをやっているよと色々な事例を紹介していただきながら、自主的に何かを始めていくということを我々は待っているという状況です。山田桂一郎さんもそうなんですが、我々もこうしてくださいね、ああしてくださいねというのではなくて、こういう課題があるよね、だからこれを解決するためにこういうことをしたいんだけど、バックアップしてもらえますかというのを待っているという状態です。できればというよりも自発的に行動を起こしていただかない限り長続きしないというふうに思っています。まちづくりは特にそうだというふうに思っていますので、その気づいたことを基に自分たちが活動していく、そこを我々はバックアップしていきたいというふうに思っていますので、今その種が芽生えてくるのを待っているという状況でございます。

○議長（三宅 耕三君） 石垣議員。

○4番（石垣 智矢君） 町長、自発的に声を上げてくるのを待っているという形でしたけれども、まちづくりにおいて、僕はまちを変えるのは民間だと思っております。行政が先頭に立ってまちというのは変わるものではないと、僕自身の考えですけど、僕はそのように思っております。自発的にという、もちろん手を挙げていただける方がいれば一番いい結果になると思うんですが、僕自身はコミュニティオーガナイズ

ング、民間のパワーから社会を変えていくという手法や方法というのに非常に興味があって勉強させてもらっておるんですが、このコミュニティオーガナイズングというものに関して一番の特徴はリーダーを作らないということなんです。いろんな方々が集まっているいろんな意見を出し合って、そのたくさんの意見を基に一つの力に変えて民間から発信していく、こういう手法がある中で、自分から声をかけて手を挙げてやってくれる子というのは、言うたら学校の中で言えば、自分が手を挙げて自分が室長、まちやクラスの会長になって前へ進んでいく子はそもそも僕はサポート要らないんじゃないのかなって。むしろ一番後ろにいるような子たちをいかに前に押し上げてあげるのかというところが私自身は行政側のサポートという、そういう意味合いになるんじゃないのかなというふうに思うんですが、町長そのあたりどのように考えておられますか。

○議長（三宅 耕三君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 民間でまちをつくっていくって、これはそれは私もそうだと思いますし、実は本町がとっているまちづくりの手法というのは、民間活用なんです。民間をいかに活用していくかということのテーマできちっとやっております。ただ若い人に関しましては、今おっしゃるとおりだというふうに思います。ですけど我々としてサポートするということは、今言いましたね、講座とかセミナー何かを活用しながら、それ以外のところでそういう経験のある方と接触してもらって、いろんな話を聞いてもらって、後ろにいる人がもうちょっと前へ出ていってもらおうということを期待してそういうことを今やっているつもりなんです。ですから少なくともそこへ参加されている若い人は、問題意識を持って参加されているというふうに思っています。ですけどそれをうまく表現できない、うまく活用できないというのが今の現状ではないかなと。ですからいろんな事例、いろんな経験をお持ちの方とどんどん接触していただいて、そこから吸収したものをこのまちで出してもらおうということをやってほしいという思いで今そんな活動を行政としてやっております。あとはその芽が出てくるのを待ってるという状況にあります。

○議長（三宅 耕三君） 石垣議員。

○4番（石垣 智矢君） でしたらぜひともそういう方々を育てていただいて、このまちの本当に大きな力になっていただける存在にしていきたいなというふうに思います。今回の町長選、4月に選挙がありますけども、なかなか町長に対抗馬が今声も上がっておりません。これは手を挙げる方がいないから残念やということではなくて、本当であれば、町長自らが自分の対抗馬を育て上げる。そういうお気持ちで

臨んでいただくことが、もしかしたら一番のまちづくりになるのかもわかりません。もちろん自分の対抗馬を作るとするのは非常に難儀するかも知れませんが、ぜひとも本当にこのまちを引っ張っていただく、芽を花にしてあげるのは本当に町長であり、行政であると思っておりますので、そういう方をぜひとも今後作っていただきたい。そのように思っております。ぜひともお願いさせていただきたいと思っております。

今、若い世代の方々と言いましたが、これは決して地域教育に関しては若い世代の方々だけの問題でもございません。三重大学との共同研究の活動報告がありましたが、その中に本町の抱える課題として、高齢者の方々の、高齢者世帯の増加であったり、独居高齢者が増加している。それによって高齢者の方々も地域に参画できない。そういう現状があるという、そういう報告書も発表されました。もちろんそれが人との繋がりを減少させ、外に出る意欲を少なくさせる。そうすると精神的また身体的にも鬱状態になったり、ひきこもりがちになり、要介護状態になる。そういうような悪循環のサイクルに陥るというデータも出ております。これは決して若い世代の方々だけの問題ではない。地域の中に若い世代が育つということは、高齢者の方々の知恵や経験を教えていただく、そういう先生方が必要なわけです。そういう方々にもっともっと地域の中に参画していただく。そのような形を町長、どのように考えておられるのか、ぜひとも教えていただきたいと思っております。

○議長（三宅 耕三君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） 先ほど答弁の中でも申し上げましたように、いろんなスキルをお持ちの方がいっぱいいらっしゃいます。それを活用できる仕組みづくりというのが必要だろうというふうに思っております。まずはニーズの把握、要するにどんなことで皆さんが困ってみえるか、あるいは企業が困ってみえるか、あるいは町内でどんなことが必要なのかというのを洗い出すということが必要だと思っております。それに合うような、それを解決できるような方が町内にたくさんおみえになるというふうに私は確信しておりますので、そこから相談をしていくべきではないかなというのの一つあるというふうに思っております。

それからこれは前から教育委員会でやっていることですが、どういう名前かわかりませんが地域の先生みたいな、要するに地域の方が学校へ行って子どもたちにいろんなことを教える、経験を教える、あるいは昔自分たちが経験したことを子どもたちに伝える、そういうこともやっております。ですから高齢者の皆さんというのは、やっぱり若い人たちにとっては生き字引だというふうに思っておりますので、こういう方たちの知恵をこのまち、社会全体が活用させていただくということは、まちづくりに

とってとっても大事なことはないかなというふうに思っておりますし、またこういう方たちが活躍するまちであるならば、外から見て、東員町ってこんなまちなんやと、だから自分たちがこのまちに住んだら自分たちが高齢者になったときにこんなことになんねんっていう、そういうことを思っていただけのような魅力あるまちというのになっていくのではないかなというふうに思っていますので、こうした仕組みづくりというのを急がなければいけないだろうというふうに思っています。

○議長（三宅 耕三君） 町長選の対抗馬の見解は。

町長。

○町長（水谷 俊郎君） 町長選挙に自分の対抗馬を育てよと、対抗馬を育てるかどうかは別にして、実際にやっぱりまちと一緒に考えていっていただくそんな人材づくりというのは、これはどうしても必要だというふうに思っていますし、当然このまちづくりの主役となって担っていただく方というのを待ち望んでいることは私もしかりなんです、自分の手で作り上げるというのは、どうなのかな。一緒にそういうまちづくりを考えていく、そんな仲間づくりを特に若い人と一緒になってこういうまちづくりを考えていただく方を作っていくということは非常に大切なことだというふうに思っております。それが足りなければもっともっと精進しなければいけないというふうに思います。

○議長（三宅 耕三君） 石垣議員。

○4番（石垣 智矢君） 今回対抗馬がないというのは、これは町長の責任でもあるのかなというふうに思っておりますので、次はぜひとも対抗馬を作ってください。ぜひよろしくをお願いします。

先ほど町長からお話をいただきました高齢者が活躍できるまちということで、私が先ほどもお話ししてもらったように、自分たちでこれを子どもたちに教えてあげようとか、自分の息子や娘たちにこれを教えてあげようと意欲を持ってやってくれる方々というのは本当に行政側が何もバックアップしなくても、自分たちで前を向いてやっていただける。なので本当に我々が手を差し伸べてあげなければならないのは、今、高齢者で孤立をしている方々、真っ先にここに気付いて手を差し伸べてあげられるのが行政側なのではないかなというふうに思っております。ですので、しっかりと民間の前に立っておる方々のベクトルに行政側の方々が背中を押してあげられる。そういう組織体制をぜひとも作っていただきたい。そのように思っております。

私が今若い世代の方々の話と高齢者の方々の話といろんな世代の方々が大事だという思いでお話をさせてもらっておりますが、僕はこの東員町の一番の宝はやっぱり子

どもだと思っています。子どもなんです。今東員町で、私は神社の神主もさせてもらっておりますけれども、先ほどお話に挙げた大社祭りもそう、これも若い世代がやっています。そして六把野の方では六把野獅子舞、これも子どもたちがやっているんです。小学生の子たち。先ほど町長がおっしゃったミュージカル、こども歌舞伎も子どもたち、若い世代の子たち。そしてそれぞれの地域で、もちろんいろんな神社の大祭りがございますけども、そこで踊る、奉納する舞姫さん、舞姫さんは小学校5年生、6年生の子たちなんです。こんな地域どこにもないんですよ。舞を踊る子たちが小学生なんてあり得ないんです。でもそれが伝統であり、文化として今根付いている。子どもたちが活躍できるまちづくりというのを先代の方々はずっと今まで引き継いでやってきていただいている。それが東員町だと思っています。ぜひとも先代の教えというものを、子どもたちが宝である。東員町には名産品づくりやら、特産品づくりやらと私も一般質問でさんざん言ってこさせていただきましたけれども、本当にこの東員町の特産品、特産品と言ったらだめですね。本当に一番輝くものは子どもなんだ。これが東員町の一番誇れるものである。一番輝くものなんだ。そういうふうに言っていただけるまちづくりを僕はしていただきたい。名産品、特産品がなくたっていい。子どもたちが一番の宝だと、そういうふうに大人たちが言ってあげられる、そういうまちづくりをぜひとも私はしていただきたいなというふうに思っております。そういう意味で、最後に町長、子どもたちをどのような形で輝かせていただけるか、子どもたちの活躍できるまちづくり、最後にそのことだけぜひともお聞きして私の最後の再質問にしたいと思しますので、ぜひよろしくお願いします。

○議長（三宅 耕三君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） 私は今東員町の子どもたちは輝いているというふうに思います。逆に大人が東員町の子どものまねをすべきだと、見習うべきだというふうに私の自戒も込めて思っております。それぐらい今東員町の子どもたちは私は輝いているというふうに思います。さらに、さらに輝いてもらえるようなそんな教育、保育を我々はやっていかなければいけないというふうに思っております。子どもたちを見習って、我々も輝くことこそ、子どもたちがもっともっと輝くまちになっていくのではないかなというふうに思っておりますので、私もそれからここにいる大人の皆さんも町民の皆さんもぜひ一人一人が輝いて子どもに恩返しができるような、そんなまちになっていきたいというふうに思います。

○議長（三宅 耕三君） 石垣議員。

○4番（石垣 智矢君） ありがとうございます。子どもたちが輝くためには、

我々大人が輝けなければ子どもたちは輝けない。教育って教えて育てるって書きますけど、僕は教えて育てるのではなく、ともに育つと書いて「共育」。ともに育つと書いて「共育」だということが、この東員町には一番適している。伝統や歴史や文化のあるまちでございます。ぜひとも子どもも大人もともに育てる「共育」をこれからも押し進めていただくことをお願い申し上げて、私の今回の一般質問とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

-----

○議長（三宅 耕三君） 石垣智矢議員の一般質問を終わります。

これにて本定例会の一般質問を終わります。

以上をもって本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれにて会議を閉じ散会いたします。どうもご苦労さまでした。

午前11時40分 散会